against needle-stick injury should be carried out hastily.

P-3. ダウン症候群患者における歯科インプラントの応用（4年半経過症例）

○吉成 正典・椎葉 俊司・岩本 将嗣・塚本 徹・松本 吉洋・坂本 英治・服部 清・仲西 修
九歯大・歯麻酔

重度心身障害者の歯科治療は治療や維持管理の困難性から、多くは充填か抜歯に代表される。治療の度にこれらを繰り返すことから、次第に歯を喪失していくのが現状である。

しかし、その欠損部は補綴されず、放置される事が多い。その結果、残存歯の負担が過剰になり咬合崩壊が進んで行き、最終的にすれ違い咬合や無歯顎になってしまう事が多いと思われる。

口腔インプラントはプラークコントロールが期待できない心身障害者に対して禁忌とされてきた。しかし、定期的な PTC や介護者等の協力により口腔衛生環境を維持することも可能である。

ダウン症患者の欠損部補綴に口腔インプラントを応用した。4年半が経過した現在も良好に機能しているので報告する。

A case of 4.5years after dental implantation for a Down's-syndrome patient

Masafumi Yoshinari, Shunji Shiiba, Masatsugu iwamoto, Tooru Tsukamoto, Yoshihiro Matsumoto, Eiji Sakamoto, Kiyoshi Hattori and Osamu Nakanishi (Department of Dental Anesthesiology, Kyushu Dental College)

Dental treatment and maintenance for the seriously disabled are difficult. Since only the filling and the extraction of tooth are generally performed for them, they are to loose their teeth as they take some treatment. In many cases, the missing teeth are not restored. Therefore the occlusal pressure on the remaining teeth is increased and occlusal destruction progresses, and finally end up in edentulous jaw. Dental implantation was of contraindication for the disabled who cannot manage the plaque control. However they can maintain their oral condition by professional tooth cleaning and the helper's cooperation. This is a case of 4.5years after implantation for a Down's-syndrome patient. It shows that he has kept good oral condition.

P-4. 垂直加圧根管充填時の溢出と根尖透過像との関連

○矢野 淳也・北村 知昭・寺下 正道
九歯大・保存1

歯内治療における垂直加圧根管充填法の問題点として、根充材の根尖孔外への溢出がある。しかしながら、どのような根尖部の状態の時に溢出が起きるのか、十分に明らかにされていない。今回、垂直加圧根充における適切な治療術式を確立するため、根尖透過像の状態と根充時の溢出の関連を検討した。3名の歯科医師が保存治療科歯内治療用クリティカルパスに沿って治療を行い、GC社製タックエンドガターとシーラーを用いた垂直加圧根充を行った、208歯、275根管を対象とした。根充直後のX線写真から根尖透過像に応じた5タイプに分類するとともに、根尖透過像の最大幅径を計測し根充材の根尖孔外への溢出の有無との関連を検討した。溢出は、根尖透過像が存在しない根管の4.8%、根尖透過像が存在する根管の42.4%で認められた。溢出した根管の85%は根尖透過像の最大幅径が5mm以下であった。また、根尖透過像のタイプによって溢出の割合に差があることが確認された。垂直加圧法による根充材の溢出には、根尖透過像の大きさのみではなく、その性状が影響していることが示された。今回用いたX線写真上での根尖透過像のタイプ分類に基づいて判断することで、垂直加圧法における根充材の溢出を回避することが期待できる。

The relationship between the periapical condition and the apical overfilling by the vertical obturation technique

Junya Yano, Chiaki Kitamura and Masamichi Terashita (Department of Operative Dentistry, Kyushu Dental College)